

特別寄稿

東京外語大教授 中嶋 嶺雄

わが国ではあまり報じられていないが、今、世界でもっとも注目すべき政治動向は、台湾の内政ではなからうか。この三月二十一日に迫った総統(大統領職)、二十二日の副総統選挙をめぐって、台湾内部に無視し得ない動きが出ていたからである。何しろ、台湾はその外貨保有高が八百億米ドル前後に達し、西ドイツを抜いて世界第二位になっているが、ひよっとすると日本を抜いて世界一になるかもしれないとみられる。『経済大国』に今やなりつつある。貿易総額や対外投資総額でも、人口わずか二千万の台湾の方がその六十倍もの大国、中華人民共和国よりもはるかに大きくなっているのだ。

NIESの一の好成績

今日の経済優位の時代に、台湾はアジアNIESの「四つの小竜」の



なかで、もっとも好成績であり、その経済的影響力は全世界に及びつつある。

その台湾は、蒋介石独裁体制から

見逃せぬ台湾の政治動向

躍進経済のよとの総統選

蔣経国権威主義体制を経て、現在の李登輝民主体制へと典型的な政治発展を遂げ、今日の繁栄と安定そして

したら、今日の台湾の発展は一挙に損なわれ、急激な変化が生じ、それに乗じて中国の台湾武力解放でも誘うことになれば、経済的活力を示しつつある東アジア経済圏が深刻な危機にさらされよう。



い外省人、李元簇・総統府資政が来るべき国民党代表大会で選ばれて当然であろう。だが、そこに若干の波乱が生じた。李総統の人氣と改革志向に危機感を抱いている国民党の保守派や頑迷な長老の一部が、台湾人の林洋湾・立法院長を総統に、蔣緯國・国家安全会議秘書長を副総統に担ぎ出そうとしたり、また、長老の李煥・行政院長(首相)を総統に、林洋湾氏を副総統になどという動きも水面下にあったりして、ごく最近まで、台湾政治の混迷が懸念されたのである。幸いにして、これらの動きは結局抑えられたが、近視眼的な視野や個人的な権力欲ほどの国も共通と見えて、台湾政治の現状の一断面を垣間見せたのであった。

李政權支持90%以上

このような台湾をめぐる国際環境を冷静に眺め、また、李登輝現総統の人氣とこれまでの実績からすれば、去る二月十一日の国民党中央委員会総会が選出した次期総統候補として台湾本省人の李登輝現総統、副総統としては李登輝現総統の信任が厚

李登輝現総統はそのステイツマンシップとリーダーシップにおいてゴルバチョフ書記長に匹敵する人材で

あり、中国大陸を含むアジアの将来の政治に欠かせない指導者である。それだけに野党も含む台湾の広範な大衆に支えられており、世論調査ではいつも九〇%以上の支持率を有している。だから、文句なく総統に再選されてよいはずなのに、現行の台湾政治のジレンマとして、総統の選出母体である国民党代表大会は、七百数十名のメンバーのうち七百名前後が大陸時代に選ばれた高齢の外省人であり、台湾本省人は数十名にしかすぎないという政治構造上の制約(いわゆる「法統」問題)を余儀なくされている。

民意を代表しないこのような制度を全面的に改革しようとしている李総統は、とりあえず、現行体制下の国民党代表大会で当選しなければならぬのであり、ここに李総統の苦勞があることは言うまでもない。この点では、最高幹部会議を人民代議員大会へと改組したうえで政治改革を断行できるゴルバチョフ書記長の方が容易だといえよう。

しかし、今回の台湾内政の振動も、長期的には問題がはつきりしたという点で台湾の将来にプラスに働くであろうし、いかに国民党の長老や保守派であっても、翻って台湾の置かれている立場を顧みれば、最後には良識ある判断を下すものと私は見なしている。

【写真】躍進する台湾経済。国産品を一堂に展示している世界貿易センターの様子は現在の台湾の繁栄を象徴している